

福井県防災士会研修旅行



【研修の目的】

「防災・減災」についての研修と会内の会員交流、ならびに日本防災士会岐阜県支部との交流を図る。

【研修先】

根尾谷断層博物館 濃尾地震で発生した断層を展示
日本防災士会岐阜県支部との交流

【スケジュール】

11月29日(土)

7:30 集合(福井高専)

7:40 集合(鯖江駅)

10:30 研修先 (根尾谷断層博物館)

12:00 昼食(うすずみ御膳)をとりながら 岐阜県支部との交流

14:00 現地出発

17:00 鯖江駅着・解散

レンタカーで移動します。

【研修概要】

設立総会の「設立について」の中に挙げた会員研修と他団体との交流の年内企画・実施を考えていた。今年は福井震災60年であるが、地震に関するアーカイブは多々発掘・紹介された感がある。県内にも被害のあった濃尾地震の際に出現した断層をそのまま観察できる施設が隣県の岐阜にあることは承知していた。

9月に入って日本防災士会の幹事でもある加藤博史岐阜県支部・事務局長に、岐阜県の研修の際において意見交換の可否について問い合わせたところ、西田正文支部長等との話し合いを経て、11月末の土曜日に日程が候補に上がった。

当日福井高専で7名、鯖江駅で2名がマイクロバスに乗り込み7時40分に出発した。高速道路、

国道 157 号を経て約 3 時間後、総勢 20 名近くの岐阜県支部の会員が迎えるなか根尾谷断層博物館に到着した。

支部長等の挨拶後、岐阜県側の準備周到な配慮により、約 1 時間の館内見学のと、近くのうすずみ温泉施設において昼食をかねての意見交換会が総勢 30 名で行われた。

根尾谷断層博物館は約 6m の断層のトレンチを館内に展示するもので、世界にも稀有な施設になっている。子どもが主人公である映画を視聴しながら、ゆれを体験できるコーナーは防災教育に有効と思われる。

意見交換会では、両県共通の課題点や、地域的特性やそれぞれの地域での役割の差異等が話された。また、岐阜県の資料と福井県の会報誌の交換等が行われた。

午後 2 時過ぎに研修を終了することにして帰路についた。全行程 350km 前後のバスによる研修旅行であった。

最後に岐阜県支部長・事務局長、岐阜県職員 2 名他、支部の方々のご配慮とご参加にはここで謝意を表します。



根尾谷断層観察館の内部



根尾谷断層の説明文



岐阜県支部の方々と記念撮影



根尾谷断層観察館とその周辺（赤線が断層）

（後ろに見えるのが根尾谷断層（高低差約 6m）写真提供は岐阜県支部の渡辺志朗氏です。

【福井県防災士会参加者の声】

午前 10 時 20 分過ぎに研修施設である地震断層観察館（国指定特別天然記念物根尾谷断層）に到着した。福井には、このような施設はない。地震体験館・地震断層観察館等を見学、昔の址を見るにつけ、後世に伝えていかなければと感じた。意見交換会では、岐阜県支部参加者全員が郵便局長さんであった、地域に根ざした活動を少しでもやっていますとの事、更に今回防災士の認定を取られた局長さんの参加もありました。局長さんの仕事も、コツコツと地道に行っているのと同様、防災の仕事も同様ですよと言うご意見であった。自分でできる処から防災の活動を一人でも多くの人に伝えていきたいです。今回参加して更に啓発が大切かを学びました、と同時に、企画立案を立てていただいた方々に感謝申し上げます。（黒）

1891年10月28日午前6時37分（明治24年）マグニチュード8.0，震度7。根尾谷地震断層観察館にて濃尾地震を今に伝える3D映像。自分に向かって柱が壁をつき破って向かってくると同時に起震装置にて地震を体験。迫力満点の映像でした。その後、6mに及び垂直に断ち切られた基盤岩石の断層トレンチ見学し、先ほどの映像と相まって当時の地震の威力に圧倒されました。観察館の外には1000mの長さに及び当時のまま保護された隆起を前に岐阜県支部の方々と合同写真をとりました。その後、昼食をかね支部の活動紹介及び会員の自己紹介と意見交換を行いました。岐阜県支部の場合、会の活動及び知名度が上がると講演の依頼等が多くなり、それに伴って派遣会員の偏り、会員のスキルの格差、事務費の増大等の懸案が出てきているとのことのお話でした。今、当会が行っている会員の交流とスキルアップを進めることの必要性を感じました。皆さんと講習会等に参加し、会員の交流、防災知識を深め楽しみながら会を盛り上げていけたらと思います。（片）

濃尾地震で、はるか福井県にまで渡って断層が発生したと知り、災害に県境はないことを再認識しました。今回は岐阜県支部の防災士の方々と交流会でしたが、県内外の他団体とも交流・協力していきたいですね。あらためて防災力向上に努めたいと思います。有意義な一日でした。（木）

【岐阜県支部より】防災に対する強い思い,有意義なご提案をいただいておりますので紹介します。

こんにちは。地震、風水害など災害はいつ発生するかわかりません。特に地震について、近年日本のどこかで大きな災害が発生して大切な命を亡くしています。防災士の方も被災することがあり、隣接する県や被災しなかったところからの防災士の支援が必要となってきます。今回、隣接する福井、岐阜両県の防災士の方との交流会が行われたことは、とても意義深いものがあります。日頃から両県の防災士の皆さんと情報交換を行い、災害時の支援は何をどのような形で支援すればよいか詰めておくことが大切だと思います。平成9年1月ナホトカ号重油流失事故で、岐阜県から県職員が貸切バスで重油の除去作業に従事した思いは今も脳裏に残っており、今年6月、東尋坊を訪れた際、10年も前のボランティアがこの海をよみがえらせたのだと感慨深いものがありました。共に助け合う心が明日の日本を築くものだと思っています。（渡）

今回は、初めて隣県の支部と顔合わせができた意義深い交流会だと思いました。次回からは、食事だけでなく双方の活動を評価するぐらいのディスカッションができるとよいと思います。福井地震は6月28日、濃尾地震は10月28日なので、お互いにイベントを行う名目はあります。丁度

岐阜県支部の総会は6月なので、それに併せてゲストをお迎えし、パネルディスカッション風に行事を行ったらどうでしょうか。(安)